



2019年3月23日生 牡 青鹿毛
 父キタサンブラック
 母シャトーブランシュ(父キングヘイロー)
 馬主/有シルクレーシング
 調教師/木村哲也(美浦)→岩戸孝樹(美浦)
 →木村哲也(美浦)
 生産牧場/ノーザンファーム
 通算成績/10戦8勝(うち海外1戦1勝)
 総取得賞金/22億1544万6100円
 主な勝ち鞍/23ジャパンC(G I)
 22・23天皇賞(秋)(G I)
 23宝塚記念(G I)
 23ドバイシーマクラシック(UAE-G 1)
 22有馬記念(G I)
 21東京スポーツ杯2歳S(G II)
 馬名の由来/昼と夜の長さがほぼ等しくなる時

優勝

第 2 位

41632 P

NEW

日本発、世界一の競走馬 イクイノックス

EQUINOX's
Impressive Scenes

H.Suga



惜敗に終止符、伝説の幕開け

2022年天皇賞(秋)(G I)

大逃げを打ったパンサラッサ。残り200mを切ってもまだ差はあったが、一完歩ごとに差を詰め残り50m付近で逆転し、初タイトルを奪取

Y.Maeda



世界にその名を轟かす

2023年ドバイシーマクラシック(UAE-G 1)

7戦目にして初の逃げ。直線で軽く促されるとその差は広がり、後続に影をも踏ませぬ完勝。世界のホースマンにその力を見せつけた

S.Naka



“世界一”を証明する走り

2023年ジャパンC(G I)

牝馬三冠馬リパティアイランドら錚々たるメンバーも相手にせず、4馬身差の圧勝。世界レーティング首位に違わぬ走りを見せた

クラシック未勝利が
消し飛ばすほどの輝きを放つ

年代別・性別ランキング

20代以下ではディーブを
凌ぐ支持を獲得

- 10代……1位
- 20代……1位
- 30代……2位
- 40代……4位
- 50代……4位
- 60代……5位
- 70代……9位
- 男性……2位
- 女性……4位

Voter's Voice

G I 6連勝も素晴らしいですが、逃げから追い込みまで全ての戦法で勝って毎回ワクワクさせてくれました(20代・男性)●イクイノックスの初G Iとなった天皇賞(秋)を現地観戦できたのは最高の思い出(20代・男性)●イクイノックスは特に魅力的ですずっと見ても飽きない馬です。本当に芸術作品というにふさわしく、近代日本競馬もついにここまで来たのかと感動しました(50代・男性)

役に甘んじた格好で2着。ダービーもレースレコードで勝利したドウェューズにクビ差だけ及ばなかった。それでもひと夏越して完成度を高めた馬は、秋の天皇賞で稀代の大逃げを打ったパンサラッサを悠々と差し切り、G I初制覇を達成。続く有馬記念も完勝し、年度代表馬に選出される。レコードで逃げ切り、世界ランキング1位の評価も得たドバイシーマクラシック、馬群の外々を振り回されながら力任せに差し切った宝塚記念と、4歳のシーズンも連勝街道を驀進。秋の天皇賞では衝撃的なレコード(1分55秒2)を記録して連覇を果たし、ジャパンCでは中3週のレース間隔と1歳年下の牝馬三冠馬リパティアイランド、初めて相対した2つのハードルを歯牙にもかけず、有終の美を飾った。

ひと昔前の感覚では、クラシックを勝てなかった馬は評価を一枚割り引かれるのが当たり前で、「史上最強」と呼ばれることはまず考えられなかった。しかしイクイノックスは本格化した3歳秋以降、クラシック未勝利が消し飛ばすほどの眩い輝きを放ち、旧来的な概念を鮮やかに覆した。クラシックは勝てなかった、というより、クラシックだけ勝てなかった名馬はいつの日か、「史上最強馬の定義を変えた」エポックメイキングな存在として、振り返られるかもしれない。

2歳8月のデビューからラストランのジャパンCにかけて、イクイノックスは10戦8勝2着2回という戦績を残した。G Iは通算6勝。勝つたびに新たな驚きを感じたこの馬を「史上最強馬」と呼ぶことに、個人的にもためらいはない。ただしその一方、同じ称号を贈られた過去の名馬たちに比べると、「敗れた2戦はともにクラシックだった」点は特筆に値する。

3歳春までのイクイノックスは強い調教を消化するとカイ食いが落ちる、全身に発疹が出るなどの体質的な弱さを抱えていた。そんな一面を考慮し、東京スポーツ杯2歳Sからの直行で臨んだ皐月賞は、僚馬ジオグリフの先導